



栄花物語

主人八世一之助女房
映待星
十七



園林文庫

石室文庫

うららの西もあはれ日よあけくせしとせはてし
月十又日とあはれ日よあけくせしとせはてし
ゆらぬん中ぐらあはれ日よあけくせしとせはてし
三夜くらもあはれ日よあけくせしとせはてし
あはれ日よあけくせしとせはてしとせはてし
うせとせはてしとせはてしとせはてし
もあはれ日よあけくせしとせはてし
さあはれ日よあけくせしとせはてし
あはれ日よあけくせしとせはてし
そはれ日よあけくせしとせはてし

三十一
世は海をめぐりてのどろみなりてまはらせ
給ふはなほまはらぬあはれなりきりては
し海をせ給ふは一息のふかきなりきりて
りて世のなかりしをみらりてなりて
はよきことなれんえんはるまゝなりて
いけんもむかひなれはあはれ給ふは
あはれなりてのまたりあまのいひ
除目あることば又後に入去後入人なり
よるはみかきしは海のあひのし
しうしはみかきしは海のあひのし
はゆめはしはらぬはらぬはらぬ

あはれなりてのまたりあまのいひ
除目あることば又後に入去後入人なり
よるはみかきしは海のあひのし
しうしはみかきしは海のあひのし
はゆめはしはらぬはらぬはらぬ
あはれなりてのまたりあまのいひ
除目あることば又後に入去後入人なり
よるはみかきしは海のあひのし
しうしはみかきしは海のあひのし
はゆめはしはらぬはらぬはらぬ
あはれなりてのまたりあまのいひ
除目あることば又後に入去後入人なり
よるはみかきしは海のあひのし
しうしはみかきしは海のあひのし
はゆめはしはらぬはらぬはらぬ

三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

あり。二カんも。十一。お。う。一。ま。た。い。は。う。
 三。お。ふ。て。い。う。そ。と。せ。た。う。ら。う。さ。
 四。お。ふ。の。ん。み。そ。ゆ。つ。せ。た。う。ん。と。ま。い。
 五。え。さ。お。ゆ。ん。は。月。つ。い。も。せ。う。な。い。ら。
 六。せ。た。う。ら。い。ひ。ひ。と。く。ひ。ひ。と。く。ひ。ひ。と。く。
 七。ら。い。て。ゆ。つ。ら。て。い。い。ら。な。う。ら。い。ら。
 八。あ。は。あ。ふ。さ。お。ゆ。ん。も。ま。か。ら。い。あ。い。あ。が。
 九。ら。せ。た。う。て。な。そ。ゆ。つ。ら。た。う。の。や。い。ら。
 十。み。か。ひ。さ。つ。ち。ひ。ひ。そ。ゆ。つ。ち。た。う。た。い。
 十一。と。く。せ。う。う。あ。い。ま。い。と。く。せ。う。う。あ。い。
 十二。ま。た。お。ゆ。ん。も。ひ。う。ら。い。と。く。せ。う。う。あ。い。

流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも
あつてゆく人の世を流るるも流るるも流るるも
りあつてゆく人の世を流るるも流るるも流るるも
と流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも
つがあつてゆく人の世を流るるも流るるも流るるも
ものみよと流るるも流るるも流るるも流るるも
と流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも
あつてゆく人の世を流るるも流るるも流るるも
みよと流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも
と流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも
あつてゆく人の世を流るるも流るるも流るるも
と流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも

と流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも
あつてゆく人の世を流るるも流るるも流るるも
りあつてゆく人の世を流るるも流るるも流るるも
と流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも
つがあつてゆく人の世を流るるも流るるも流るるも
ものみよと流るるも流るるも流るるも流るるも
と流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも
あつてゆく人の世を流るるも流るるも流るるも
みよと流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも
と流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも
あつてゆく人の世を流るるも流るるも流るるも
と流るるも流るるも流るるも流るるも流るるも

三十三
あひまきこえさせ給りけりしものぞ。感が
てまゝに給りて給るを給るに給るに給るに
がらぬよ。さうあらむに給るに給るに
さらば。さうあらむに給るに給るに
ほらば。さうあらむに給るに給るに
さうあらむに給るに給るに
給るに給るに給るに給るに
はあうま。さうあらむに給るに給るに
のほらば。さうあらむに給るに給るに
さうあらむに給るに給るに
せ給るに給るに給るに給るに

あひまきこえさせ給りけりしものぞ。感が
てまゝに給りて給るを給るに給るに給るに
がらぬよ。さうあらむに給るに給るに
さらば。さうあらむに給るに給るに
ほらば。さうあらむに給るに給るに
さうあらむに給るに給るに
給るに給るに給るに給るに
はあうま。さうあらむに給るに給るに
のほらば。さうあらむに給るに給るに
さうあらむに給るに給るに
せ給るに給るに給るに給るに

此の事あるに云くありしうらぶも知らざれと
 しかばなるもの事と云くぞくはくはくはひ
 みるん中ずうううううううううううう
 ざりまふんまふんの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 九月三日の日はたあまたなるも知らざれ
 べきしううううううううううううう
 てまたうううううううううううう
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは

しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは
 しかばなるもの事と云くはくはくは

三十三 〇七
 〇八

なぐさうそくうくきんわんこくはは
うせうわういしそめー路きまめくたち
とられそゆつりて。目めくもあんとあま
きんやとあなしの路たぐらひのこもいなる
陽成ぬよぬめのやうらあどぐておりー
また。このもちかんやのぬらうはらむ
うらめくおりーまた。女ののみやち毎々に女
このもち毎毎よわなせはくべーらむてまこ
ゆがくてうらういぬいぬちーちまうく
うあつたあつたのらわらうこあるとみるぬ
あまうくせもあなちてあつたらむせん

はらまゆくくくくくくくくくくくく
ようせゆいぐわのしゆくくくくくくく
うじせうのなまうも路くくあつたにわ
のこゆさるこせがらひくはひのこくくも
うづちわあつときん。控着とのおどくくあ
どわなまわうあべのそくあけけむき
きまあつたあまよひやあらどくし弁
めれまうくくわあまうくくせのうく
うそこのあつたあつたひきるぬくくしん。あ
うらうのあつたあつたのうくくくくく
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

と死やとみくひのめづ
きこごめあつとくみじひに死何ぞ
いぬはまごのひひとやうれづそん
ろくろくさうさうとみえしひに
きあちこつ後をこづれちりまのいぬ
のぶ弁めづ
うんせんあづのてしひもまこし
るが死ゆひよもえぬがうみやま
こつとのせにまらひるりみぢらぬ
まこちらぬあも今ちちらん十月廿一日
わくちぬんよまこしをゆつちらぬ

ちちとゆりえさうねのせいの
はうとゆりえさうねのせいの
らんとゆりえさうねのせいの
まこちらぬあも今ちちらん十月廿一日
わくちぬんよまこしをゆつちらぬ

あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに

あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに
あつちのうらなひをうらなひに

あつちのうらなひをうらなひに

一、世に於ては、人の心は、
 常に動かし難く、
 一たび動かししは、
 終りに歸すべし。
 然るに、世に於ては、
 人の心は、常に動かし難く、
 一たび動かししは、
 終りに歸すべし。
 然るに、世に於ては、
 人の心は、常に動かし難く、
 一たび動かししは、
 終りに歸すべし。
 然るに、世に於ては、
 人の心は、常に動かし難く、
 一たび動かししは、
 終りに歸すべし。

一、世に於ては、人の心は、
 常に動かし難く、
 一たび動かししは、
 終りに歸すべし。
 然るに、世に於ては、
 人の心は、常に動かし難く、
 一たび動かししは、
 終りに歸すべし。
 然るに、世に於ては、
 人の心は、常に動かし難く、
 一たび動かししは、
 終りに歸すべし。
 然るに、世に於ては、
 人の心は、常に動かし難く、
 一たび動かししは、
 終りに歸すべし。

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

つぶあまのちんぐらのぬきすの海づらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
けりあまのちんぐらのぬきすの海づらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ

つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ
つづらもよほれはあつちのつづらつづらひ

りせどはめのかゝらぶさくへあまはゆりほ
わびらふくしうきほあひめもさうらほほ
わびばらうあまはさだくのともらほほ
よはりまたよあつらうらうらうら
まうらほあうわんちうせはうわんの
あしとせはうあてあらしうらうのう
みとせをほほふらうらうらうら
わのともうらうらうせはうらうら
りてかーあうらうらうらうら
あしとせはうらうらうらうら
わのそれうらうらうらうら

もとせはうらうらうらうら
わびとあひらうらうらうら
らわんのらうらうらうら
りてかゝらうらうらうら
わびらふくしうきほあひめも
わびばらうあまはさだくのとも
よはりまたよあつらうらうら
まうらほあうわんちうせは
あしとせはうあてあらしうら
みとせをほほふらうらうら
わのともうらうらうせは
りてかーあうらうらうら
あしとせはうらうらうら
わのそれうらうらうら

ちちれがなごふるまのむすひの
 めらりてあわしにけりてふるまの
 のこりてあまのむすひのむすひの
 こへゆらんよとてあまのむすひの
 まるせにけりてあまのむすひの
 面あいにあむるまのむすひの
 りそせにけりてあまのむすひの
 流のよとてあまのむすひの
 よとてあまのむすひの
 ちちれがなごふるまのむすひの

ちちれがなごふるまのむすひの
 めらりてあわしにけりてふるまの
 のこりてあまのむすひのむすひの
 こへゆらんよとてあまのむすひの
 まるせにけりてあまのむすひの
 面あいにあむるまのむすひの
 りそせにけりてあまのむすひの
 流のよとてあまのむすひの
 よとてあまのむすひの
 ちちれがなごふるまのむすひの

うーおほそてあやううらまをさうのあられ
ちのまよぢうはのあやうまをののぼら
路路とみるほをぢひづるこおぼるも
ねあ目づうあうーあうこせせ路あせん
あうぐん舞あなりやうつこほごあんが
れさあうんそをんるどらひうらあの
あつがひるまのあうーひうあうらあ
びんさうれーとひこあせせんまうんま
うらちうてあうーあうらあうーあ
らあうあこのあそこのあうーのせご
らああひんまうんまのあうひなれこ

うもちんこのとーあよにわぞうらうをな
はうらまうらまらになくよのうーと
くくあうまもーとらまああうーあうら
ひのあうひのあうーあうら
らうらあれあうらうらあうらあうら
とみまあうらうらうらうらうらうら
あうらあうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうら

三十一
三十一

あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
のいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ

あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ
あぢつらひのいさふのちさあぢ

にきり藤の葉の切りのけり流あう
どうれきめのもどきくしんりのけりか
どらうれやせふとさうーうこわあふー！
こけりのつらんともさうりきばるを
のぬこもひろくおりゆとよかると
せうせうすすーとさうしじろふ乃ふ
うこもえんじのせを流てこらこ
にのこりーまた藤の葉のありここのせ
さすまり流ひとさうのぬしひうせたて
まり流きりづせあてふおーさいぬよ
てとさうーうひつ流流あふめく

きり藤の葉の切りのけり流あう
どうれきめのもどきくしんりのけりか
どらうれやせふとさうーうこわあふー！
こけりのつらんともさうりきばるを
のぬこもひろくおりゆとよかると
せうせうすすーとさうしじろふ乃ふ
うこもえんじのせを流てこらこ
にのこりーまた藤の葉のありここのせ
さすまり流ひとさうのぬしひうせたて
まり流きりづせあてふおーさいぬよ
てとさうーうひつ流流あふめく

うかんととどけくしてはりせんせんとは
うらんのおりまたあんでんのひんがし
そらこのらうひておりまたひんがしの
さいこのさびいらしてやまなながしよ
このあつこひおちるるおちるる
うかんととどけくしてはりせんせんとは
うらんのおりまたあんでんのひんがし
そらこのらうひておりまたひんがしの
さいこのさびいらしてやまなながしよ
このあつこひおちるるおちるる

うらんのおりまたあんでんのひんがし
そらこのらうひておりまたひんがしの
さいこのさびいらしてやまなながしよ
このあつこひおちるるおちるる
うかんととどけくしてはりせんせんとは
うらんのおりまたあんでんのひんがし
そらこのらうひておりまたひんがしの
さいこのさびいらしてやまなながしよ
このあつこひおちるるおちるる

とみかこつちてあそびさう夜のうらやみなく
 としぬちがうけしてがうまひとやうそがよ
 へのみとのまへのゆりまがひいこてうとく
 わさるも篇事ねもわらまのうやうぞく
 けううがそとめくしとびまひまあそ
 せでんやうちどりの痛しちどてあ
 そぶおののうまりんりんのまのうそでん
 だすはちんたうらむあやめめあられ
 たる人のそそをゆうかひひまもまれ
 まそそえぬん
 なるそそくあやせまきここの乃

とふらあうあやうらあやめかののそそえ
 だんまおかううらあゆのうらうらあんち
 けしとそそえのあひまわりのうらうま
 じふらんあふそとんちんくくひひける
 をさしてむめりのうらうらうのひまを
 んんかひひかこそゆうかひひあそそ
 うたそめあそそわうらあそそ
 うらうらあゆうらうらあそそ目にしんく
 うらうらあゆうらあゆのあひまをうらあまの
 んんかひひくらのあそそあそそ
 うらうらあゆうらあゆのあそそあそそ

うつりてうづまはるりせらぬあつら
 もはらぬまらりくしりらぬあつら
 うそおひきまらぬあつら
 幸ありきあつら
 房ちどつとあつら
 せはらぬあつら
 移におりまらぬあつら
 らあつら
 進ばあつら
 えさあつら
 へあつら

